

# 真高寺だより

第14号 平成22年8月1日発行  
発行所：真高寺（伊澤孝順住職）  
住所：市原市飯給1143  
電話：0436-96-0058  
\*発行責任者 根本 貞夫  
\*編集責任者 木村 孝一



(写真提供：山内憲章氏)



## 夏ほととぎす

総代会長  
根本 貞夫

よく伊澤住職が「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さて 冷しかりけり」と称えられます。初めて耳にした時もその後も、「何を当たり前なことを言っているのだろう」とずっと思っていました。しかし最近になって、これは道元禅師の「傘松道詠」という中にある歌で、春夏秋冬の一切がみんな宇宙の生命の姿として、歌われているのだということを知りました。四季の象徴として、花、ほととぎす、月、雪、を詠まれた訳です。ですから禅家である私たちは、この歌を折に触れ何度も口に出して称えるべきなのだとこうです。このことを知ったせいか、最近ほととぎすの美しい声をよく耳にします。私たちの住んでいる加茂の山野には、昔からほととぎすは多くいたはずなのに、ほとんど気付きませんでした。馬齢を重ねたせいでどうか、在るがままの何気ない自然の営みを実に美しいと感じるようになりました。

## 道元禅師のおことば

志の到らざることは無常を思わざるに依るなり

〈正法眼藏隋聞記〉

### おことばの意味

人間も他の生物と同じように、この世に生まれてきたら、やがては必ず死ぬ。だからこそいま生きていることが限りなくありがたい。いつかは死んでしまうということを、しっかりと自覚しない限り、美しい花を見て美しいと、風鈴を鳴らす風を涼しいと、掘り抜き井戸の水を美味しいと感じができる自分の肉体の働きの尊さに、心底から感謝感激することはできないだろう。

## 「行持」の意味とは…

住職  
伊澤孝順

私達の日々の生活で、よく月々の行事とか年行事、または恒例行事、その他多くの行事があります。日常、事を行う行事が、仏教では漢字で「行持」を多く使います。

曹洞宗の開祖、道元禅師の教えに「然あれば、即ち一日の行持 是れ諸仏の種子なり、諸仏の行持なり」と宗門教典の「修証義第五章 行持報恩」の末文に記されています。

この意味するところは、「我々における一日の行持は、そのまま諸仏を出生せしめる種子となり、諸仏の行持となる」ということです。「行持」とは、たも行いを持つという意です。

仏道を行ずる事は、何も難行苦行をする事ではなく、自分の意志をもって、正しき戒律を一生休むことなく怠ることもなく継続することで、ある点でとても厳しい行いでもあります。

仏弟子となる為の儀式を得度式と言います。導師より「戒をよく持つやいなや」(戒をよく守り誓うか誓わないか)と問われます。それに対して、弟子は「よく持つ」(よく守り誓います)と答えます。まさに「よく持つ」と言った瞬間より、行持の始まりとなるのです。



## 今年の新盆家・棚経日程



### 檀家

8月13日(金)・新盆家棚経

万田野地区	石井喜一家
	中山悦夫家
	仲村末子家
柿木台地区	大沼康衛家
飯給地区	花澤シズ子家
	木村稔家
大戸地区	岡野勇家

8月14日(土)・盆供養 棚経まわり

高滝・養老地区

### 靈園

7月19日(海の記念日)

木暮仁家	石井紀子家
佐々木博家	小田邦博家
上野茂家	加島和子家
小山實家	村山正之家
齋藤昭雄家	田邊親一家
大住美鳥家	



## 山内あれこれ

### 皆さんのご寄進・ご協力に感謝

2月、総代会長の根本貞夫氏より、桃の苗木500本、河津桜の苗木130本が奉納され、役員全員が参加して、本堂の裏山・鐘楼の下・参道の入り口に植樹しました。



4月、柿木台の大沼克己氏より、松の木・楓の木・庭石の奉納がありました。



4月、宮原の根本一夫氏より、さくらんぼの苗木の奉納がありました。



4月、万田野の中山悦夫氏より、岩つづじ30本の奉納がありました。



2月、万田野の中山建築の中山悦夫氏より、外東司建築の手間代・扉・その他の奉納がありました。また東飯給の建築板金業の高山武志氏より、えぶり板・銅板の奉納がありました。また、西飯給の松本金蔵終身總代には、外東司の建築にあたり終始全面的な助力をいただきました。



2月、万田野の仲村末子氏より、供養の為として20万円の寄付がありました。これは信徒会館の屋根瓦補修工事の費用に充当させていただきました。



### 立派に完成です

2月下旬、外東司が立派に完成しました。内部は和式・洋式・殿方用の3設備で、地元産木材をふんだんに使用した立派な作りです。この建設は万田野の中山建築が行いました。



### 屋根は一安心です

三和の加曾利瓦屋さんにお願いして、棟瓦の修復をお願いしています。今まで瓦の下地の粘土がひどく湿り気を持っていて、この修繕をしないと屋根に損傷が出てしまうとのことでした。



## 「南無釈迦牟尼仏」のお唱えは愛語の根本です

6月27日(日) 午後1時過ぎより、藪の八幡山大泉寺を会場として、千葉県第16教区護持会研修会が開催され、真高寺からは根本総代会長を初め例年のように、総代役員が参加しました。研修会の概要は以下の通りです。

始めに曹洞宗大道管長の「おことば」が代読されました。特に道元禅師の言われた「現在の身命の存せらんあいだ、このんで愛語すべし」との、愛語を実践の柱とする内容のお話でした。愛語とは苦しい時も楽しい時も、常に相手のことを思い、人を生かし、人を仏道に導く菩薩行です。「南無釈迦牟尼仏」のお唱えは愛語の根本です。

続いて「人権学習」として戦時に徴用された東アジア人遺骨返還について、特に朝鮮人に関わる事柄をビデオを使って話されました。北海道猿払村の飛行場建設や神岡鉱山のトンネル工事など、多くの朝鮮人が動員され、今も遺骨がそのままになっているとのことです。

最後に、札幌市薬王寺の住職である田中清元老師が布教師として見えられ、「いのちの絆」と題して「皆様と私の絆」についてお話をありました。

『私たちの先祖に誰一人子供を作らなかった人はいない。だから今私がいる。この世のあらゆる生き物は、多くの生き物の命を頂いて生きている。私たち人間は、その頂点にあって単純計算上は、1年間に16万匹もの命の連鎖の上に生存している。そのことを自覚した時、この地球上の多くの生命と強い絆で結ばれている命の尊さに気付き、日々生かし生かされていることへ感謝し、慈悲心あふれる行いを実践しなければならない。』

## 総代会開催

7月3日(土) 午後7時より、真高寺信徒会館で総代会が開催されました。当日は、佐久間常壽特別顧問も出席されました。

この席で、柿木台の小澤平治総代と大戸の鈴木榮総代が退任されるとの話があり、出席していた小澤総代から次の退任の挨拶がありました。

「一、二年のつもりが二十数年になった。特に山門改修では会計を担当し、他の会計担当者であった松本隆允さんや木村喜一さんと何度も膝を詰めて話し合ったのが思い出深い。今後は体の許す限り旅行などの付き合いはします。」なを、小澤平治氏の後任には小澤恒二氏が就任されます。

また鈴木総代は欠席されましたが、皆様に宜しくとの言葉があった旨住職よりお話をありました。



総代会では、以下の内容について話し合いました。

- ①8月15日の施食会での役員配役について
- ②開山・歴代住職の墓石移動とその見積もりについて
- ③水子地蔵の修復と移動とその見積もりについて
- ④7月25日(日) 総代役員による境内草刈りについて
- ⑤第16教区護持会研修旅行への参加について
- ⑥西国三十三所巡礼の旅「2泊3日」の実施について

話し合いの結果、開山・歴代住職の墓石移動、そして水子地蔵の修復と移動については、凡そ300万円くらいの事業費を要するとの見積りが出されました。伊澤住職からの提案について、佐久間特別顧問からは、「山門改修の残金を使用することについて、今の役員で決めれば良い」との話があり、概ねの了解はされました。しかし根本会長より特に意見が出され、本日出席されていない山門改修当時の関係者にも話はすべきだとことで、稲刈りの終わった9月中旬頃、再度拡大総代会を開催することとなりました。



小澤平治氏



小澤恒二氏

## 仲村正憲さんお世話になりました



山門修復時に総代を務められた万田野の仲村正憲氏の葬儀・告別式が7月5日(月)真高寺で行われました。

平成22年7月4日寂 精雲院徹山正徳禪居士位 (俗名 仲村正憲 行年85歳)

仲村さんは山門改修の調査委員長として、更にまた改修工事の副委員長として大いに尽力されました。山門落慶後、病を得て総代を退任されましたが、温和な人柄と高い見識は皆さんから尊敬され慕われました。山門改修という大事業の具体的な方向を見出さねばならない時、大変に重要な役割を果たされたことは長く語り継がれることでしょう。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

悼 山門を仰げば一日ほととぎす 傘休

## 和やかなお日和でした

4月10日(土)、真高寺で初めてとなる灌仏会が行われました。当日は天候にも恵まれ、訪れた大勢の皆さんに大変喜ばれました。これからも真高寺の新たな行事として、広く定着化を図って参ります。



## ポンプが止まって

お寺の水源は裏山からの水です。以前は西飯給専用水道の水源としても使われていたほど豊富で良質な水です。ところが7月5日突如としてポンプが故障し、断水してしまいました。お陰で、全自動の洗濯機から湯沸かし器など、水を必要とする設備が全て不具合を起こし、さすがの大黒様もこれにはお手上げ。止む無く洗濯機を二槽式買い替えたそうです。

## 石屋さんが代わりました

今まで真高寺では、主として水村石材さんが霊園の墓石を始めとする設置工事に関わってきました。しかし都合で水村石材さんが退いたため、牛久の山内石材と原地石材、そして君津の東石材の3社が後を引き受けることとなりました。なを、施主の意向で他の石材店を希望される場合は、どの石材店が事業を行っても自由であり制約は一切ありません。これは従前通りです。

## 西国巡礼3年かかりで



11月14日(日)～16日(火) 2泊3日でサロンバスによる西国33所巡礼の旅を3年計画で実施します。初年度の今年は、一番札所である那智の滝の青岸渡寺から第六番札所の南法華寺(壺坂寺)までです。募集人員は35名、費用は約48,000円で、旅行業者は五井の新三晶トラベルです。申し込みは伊澤住職まで。



## 日曜の午後は真高寺でべ静かに

真高寺では、毎月第二日曜日には座禅、第三日曜日は写経、第四日曜日は写佛を行っています。いずれも午後からで、費用は500円。本堂奥の座敷が会場です。道元禅師が言われています。たった一回の座禅であっても、宇宙の生命と合体できると。

## 奉納額を一新

これまでご奉納された方のお名前等がある時は紙に、またある時は板に、それぞれ別々に掲げてきました。そこで、これらを全て一体化し、新規に伊澤住職の手書きによる奉納扁額を作りました。



## 紫陽花が咲きました

昨年植えた紫陽花が今見頃です。何でもそうですが、結果として花が咲きます。花の絶えない美しい真高寺も間もなくです。

## 汗だくの草刈りでした

恒例の総代役員による境内の草刈りを行いました。7月25日の日曜日が本番でしたが、都合の付かない人は前日の24日の土曜日に行いました。暑さを避けるため、早朝7時30分から始め、概ね午前中で切り上げました。「熱中症に気をつけて」と根本会長から差し入れられた飲み物を摂りながら、みな汗だくの勤労奉仕でした。



## 本山税の納付をお願いします

例年のことですが、本山税の納付時期となりました。一般家3,000円、院号家3,500円です。直接持参されるか、役員等に依頼するかして下さい。

## 真高寺へのメッセージを

檀信徒の皆様の思いや考え、そして近況などをお知らせ下さい。手紙や葉書、ファックスなど、何でも結構です。インターネットの時代ですから、真高寺でもパソコンによるメールが出来るように検討してまいります。そして近い将来、ホームページの立ち上げも考えたいと思っております。